鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

第131号　H30.11.1

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

アートの効用で人生を豊かに

芸術（美術・工芸）　立元真一郎

秋もいよいよ深まり、心も体も幾分とクールダウンしてきた。まさに「芸術の秋」に相応しく、アートを鑑賞するには最適な時期であろう。多忙な日常から少し離脱し、静謐な空間の中でアート作品と向き合うことはとても意義深いものである。

近頃は書店を訪れると「ＡＩに負けないビジネスセンスは美術鑑賞で磨け！」や「芸術の教養がないと国際社会で恥をかく！」「なぜ、世界のエリートはどんなに忙しくても美術館に行くのか！」など、芸術に携わる者からすると大変心強いエールを送ってもらっているような書籍のポップをよく目にするようになってきた。しめしめ、これはアート界に追い風が吹いてきたな、と喜んではみたものの、その理由が良く解らない。どうやらグローバル企業の目覚ましい躍進の理由の一つにアートによる美意識の鍛錬が挙げられていることが一つの要因であるようだ。

芸術には絶対的な正解は無い。同じ作品を観ても感じ方は十人十色であり、みんな違って当たり前だ。だからこそ、鑑賞の経験が豊かになればなるほど、自分の価値観だけでなく他人の価値観を認められるようになってくるのではないだろうか。そうして多様な人材がいる社会では自然と様々なアイデアが生まれ、画期的なイノベーションにつながる可能性も出てくるかもしれない。ここに、多くの企業が最近こぞって美術館等で実施している「対話型鑑賞」と呼ばれる各人のコミュニケーション能力のスキルアップを主眼とした研修が増えている理由も見いだせる。

また、日本では今世界で活躍できるグローバル人材の育成が急務と言われているが、ここでもアートの果たす役割は小さくない。「語学力」に長けていることは当然であるが、それ以上にその人が持つ教養の高さと、豊富な雑談力が重要となろう。アートを介してお互いの文化に興味を持ち、尊重し合うことから自由に意見を言い合え、それを一つの契機にして自己開示できるようになる。すると、相手も同じ気持ちで接してくるようになり互いの距離が更に近づいていく。性別や年齢、人種等の違いを超越した人と人との関係性に重きを置けるようにもなっていくはずだ。これこそ理想的なリレーションシップといえるだろう。

更に、芸術作品が身近にあることで美的センスが磨かれたり想像力や創造力が向上し、気持ちが穏やかになったりしていく。そして自分なりのこだわりを持って丁寧に生活を楽しめるようになっていけるだろう。

世界的アート・コレクターとしても名を馳せているＺＯＺＯＴＯＷＮを経営する前澤友作氏は、約１２３億円で購入したジャン・ミッシェル・バスキアの絵画を前にして普通に食事をすることや、作品を思う存分眺めながら眠りにつくことは極上の喜びである、と述べている。そんなことは決して公的な美術館ではできはしない。桁外れの例ではあるが。

このようにアートの効用を身近に感じている人々は、日々の生活に彩りを添えながら自らの意志で人生を切り拓いていくことを自然にやってのけるであろう。

科学史家の山本義隆氏は、勉強の目的について次のように述べている。「専門のことであろうが、専門外のことであろうが、要するにものごとを自分の頭で考え、自分の言葉で自分の意見を表明できるようになるため、たったそれだけのことです。そのために勉強するのです。」

アートをたしなむ第一歩として皆さんにお勧めしたいことがある。身のまわりにある美しいものや自分がアートだ思うものに意識を向けて「観る」こと。そして、そこで感じた何かを「言葉」にしてみること。たったそれだけのことで人生が変わっていくかもしれない。

万鶴博覧会

～第七十回文化祭

台風25号接近のため十月八日（月）の開催となった第七十回文化祭。大事を取って延期したおかげもあり、当日は実に清々しい好天に恵まれた。台風一過の後始末に時間を要し、30分時間を遅らせてのスタートとなった。

例年と趣向をがらりと変えた開会式は、生徒会役員による映像と演技を融合した寸劇で幕を開けた。現代の鶴丸高校にタイムスリップしてきた西郷さんと大久保さんが、文化祭の存在を知りその内容を観客に紹介していく、という設定だ。寸劇終了から途切れずにダンス部のパフォーマンスへ。「Crush」をテーマにしたステージで会場は早くも大きな盛り上がりを見せた。続く25Ｒの劇、放送部恒例のからいも標準語講座、個性豊かなメンバーが奏でる美しい音色の音楽部ステージ、迫力満点の書道パフォーマンス、演劇部の三人劇「サンタとトナカイ」。そして午前のステージを締めくくったのは職員によるパフォーマンス。披露された曲はＡＫＢ48の「３６５日の紙飛行機」。３学年の先生を中心にリレー形式でしっとりと歌い上げる姿に生徒一同は深い感銘を受けたようだった。

過去からやってきた西郷さん・大久保さん

展示会場公開後は、祝日ということもあり、保護者に加えて高校生や小・中学生、近隣にお住まいの方々も多く来場され校舎内が熱気に包まれた。どのクラス・団体も用意周到にお客様を招き入れ、存分に楽しんでいただいた。

午後からの吹奏楽部ステージ後の閉会式で再び西郷さんと大久保さんが登場し、エンディングムービーで文化祭の一日を振り返り、盛況の中幕を閉じた。「万鶴博覧会」のテーマ通り、バラエティに富んだ若さ溢れる文化祭であった。

初の試み　書・吹・音・美・イラスト部活動による合同パフォーマンス

体育館に響く白熱の討議

～立会演説会・後期生徒総会

十月十七日（水）定例の生徒総会に先立ち行われた後期生徒会長選挙は立候補者一名のみとなり、現生徒会書記総括で21Ｒの別枝寛仁君による立会演説と信任投票が行われ、高い得票の信任を得、見事後期生徒会長に当選した。続く総会では各専門部からの活動報告に続き会計中間報告がなされ、充実した生徒会活動の現状を確認できた。

第三号議案は「自主性」をテーマに生徒の自主性に注目しながら鶴丸高校を見つめ直す、という趣旨で活発な討議が行われた。

「笑い」で三年生へエール！

～三激会（学校寄席）

十月二十四日（水）宝山ホールで三年生を激励する会が実施された。今年度は古典芸能の分野で寄席公演であった。落語の楽しみ方を分かりやすく案内する寄席入門に始まり、江戸落語を二席、仲入り後に色物の紙切り芸を堪能した後、トリは上方落語の桂雀々師匠による滑稽噺でホールは爆笑の渦に巻き込まれた。出演者の皆さんは本校生のノリの良さ（鑑賞マナー）に感銘を受けられたようで、度々お褒めの言葉をいただいた。日本の伝統芸能の奥深さを感じさせられ、寄席の魅力を堪能する素晴らしい鑑賞会だった。三激会の中では、進路実現へ向かう三年生へ向けて下級生からのメッセージが届けられ、それぞれが気持ちを新たにする機会となった。三年生代表35Ｒ塩満あすかさんの挨拶の後、全員で三激会愛唱歌「かぜになれ」を声高らかに歌い上げ閉会した。

「紙切り」の林家正楽師匠にリクエストしたお題の作品をいただきました

〔読書月間〕特別企画絶賛開催中！

創立百二十五周年を前に、今年度の読書月間は特別企画としてアンケート結果から提案する「鶴丸生が未来の鶴丸生にすすめるＢＥＳＴ１２５」、本校の歴史を紐解いた「パネル展示」、悠學館来館者におみくじをプレゼントする「ho omikuji no library」の三本立てで現在展開されている。ぜひ、観覧し読書の秋を身近に味わって欲しい。

〈渡り廊下で公開中のパネル展示〉
鶴丸の制服の歴史や校歌の由来、悠學館にある貴重な古書等を展示

11月の行事予定

		11　月		食堂
1	木	3年実力考査時間割発表	かごしまの教育県民週間 教員相互授業参観週間	○
2	金			○
3	㊏	文化の日 3年進研マーク		×
4	㊐	3年進研マーク 英検第2回二次試験		×
5	月	スクールカウンセリング		○
6	火	**文化講演会**		○
7	水			○
8	木	3年実力考査（1日目） **金曜の授業**		○
9	金	**ロードレース大会（1，2年）** **3年実力考査（2日目）**		×
10	㊏			×
11	㊐			×
12	月	全校朝会　学校安全の日 集団読書（1，2年）		○
13	火		定期教育相談（45分授業）	○
14	水			○
15	木			○
16	金	2年京都賞講演会 3年PTA評議員会		○
17	㊏	悠学講座④		×
18	㊐			×
19	月	学年朝会 卒業・中間考査時間割発表		○
20	火	スクールカウンセリング 第2回学校関係者評価委員会		○
21	水			○
22	木			○
23	㊎	勤労感謝の日		×
24	㊏			×
25	㊐			×
26	月	**卒業考査（1日目）**		×
27	火	**卒業考査（2日目）** **中間考査（1日目）**		×
28	水	**卒業考査（3日目）** **中間考査（2日目）**		×
29	木	**卒業考査（4日目）** **中間考査（3日目）**		×
30	金	**1・2年クラスマッチ**		○
3年大学別模試 1年ストレスマネジメント				